

第5期ライフサポート5カ年プラン

2017. 3. 18

今年、こなんSSNが開設して以来満20年になる。これまで法人として就労継続支援B型事業所3カ所、グループホーム3カ所、相談支援事業所1カ所を設置運営し、就労を含めた生活支援を幅広く行ってきた。今後も利用者のより良い地域生活の実現をめざして、本人のニーズに応じた日中活動の提供と充実した地域生活への支援を行っていく必要がある。新たな利用ニーズに応じた事業所作りや両親の高齢等に伴うグループホーム利用も今以上に求められてくる。また現在の施設においても老朽化の激しいものも有り、早急に施設整備も必要になってくる。

高齢障害者の在宅生活の支援が求められるなか平成25年4月より介護保険の老人デイサービスをはじめが、報酬単価の引き下げや地域密着型への移行なども重なり利用者が増えず運営上厳しい状況になり、この平成29年3月末で事業中止せざるを得なくなった。現在、多くの障害施設において高齢に伴う支援が課題になっている状況がある。介護保険サービスと障害福祉サービスの狭間にいる対象者の問題も含め高齢障害者の支援を再度検討する必要がある。

ここ数年継続して取り組んでいるセルフヘルプグループ育成への働きかけや法人内での障害者雇用については、社会的な期待も大きく継続して進めていくことの意味は大きいと思われる。そしてあわせて法人本部の組織強化を図っていくことも必要である。

こうした問題や課題に対応するため社会福祉法人こなんSSNの第5期活動および整備目標として次のものをすすめていく。

1. 老朽化している夙日和の安心安全な活動をはかるための施設整備
2. 親の高齢化等にともなう利用ニーズに対応してグループホームの定員増検討
3. B型以外の利用ニーズに対応出来る新規事業の開始
4. さくら並木の反省をふまえ高齢障害者の在宅生活支援の新事業を検討
5. セルフヘルプグループの育成
6. 障害者雇用の拡大
7. 法人本部の組織強化